

平成28年度 第2回櫛引地域地区公民館運営審議会記録（概要）

日時：平成29年3月27日（月）

18:30～20:00

場所：櫛引公民館講座室

<出席者>（7名）

委員：兼子由香委員、加藤雅樹委員、宮崎広幸委員、清和ふみ子委員、
木村英俊委員、佐藤正幸委員、難波正喜委員

事務局：櫛引庁舎総務企画課長（併）社会教育課主幹 佐藤浩、
（併）社会教育専門員 長谷川勝彦、
（併）社会教育専門員 松田亜紀子、
（併）専門員 菅原源太郎、（併）専門員 藤本舞子
※委員名簿順、（併）は社会教育課併任

<欠席者>（6名）

委員：後藤誠委員、長島昭則委員、佐藤丑也委員、佐藤治郎作委員、
菅原勝委員、斎藤ゆう子委員

<公開・非公開> 公開

<傍聴者> なし

<会議内容>

1. 開会：事務局

2. あいさつ 櫛引庁舎総務企画課長（併）社会教育課主幹

3. 協議：議長は木村委員長

（1）平成28年度櫛引公民館関係事業の内容と平成29年度計画について

- ・別紙資料「平成28年度櫛引公民館関係事業の内容と平成29年度計画について」に基づき、事務局が説明
- ・質疑応答

委員：高校生ボランティアサークルの活動実績は資料に記載のとおりだが、会員数は年度当初と比べて変わったか。

事務局：28年度当初は卒業等もあり3名であったが、6月から7月に新たに加わり会員数は6名となった。活動意欲も高い。

委員：放課後子ども教室の活動では、自由に遊ばせることが中心とは思いますが、何か課題に対しての対応はどのようなことを行っているのか。また、参加する児童は、開設場所（下山添公民館）である下山添地区の子どもだけということはないか。

事務局：櫛引西小放課後子ども教室への参加は、西小の児童であれば誰でも参加でき、下山添以外の地区からも参加児童がいる。教室の趣旨は、遊びや様々な体験学習を通して、子どもたちの社会力を向上させることにあるので、自由遊びだけでなく、市民農園での農業体験や外部から指導者を依頼しての活動なども行っている。28年度については依頼した指導者による「茶会」の体験なども取り入れた。

- 委員：放課後子ども教室の教育活動推進員は、無償のボランティアか。
- 事務局：安全管理のため教育活動推進員が交代制で勤務しているが、市から1時間900円の活動謝金が支払われている。
- 委員：外部からの指導者による活動もあるとのことだが、他地域の子ども教室では、地域の芸術文化や伝統芸能を行っている方に協力を依頼しているケースもあると聞いた。櫛引西小放課後子ども教室でも、そのような活動も検討してはどうか。
- 事務局：子ども教室の運営は櫛引西小放課後子ども教室実行委員会であり、市から事業を受託する形式となっている。実行委員会には社会教育課も入っていることから、どのような取組み、活動ができるか社会教育課と相談しながら進めていきたい。
- 委員：丸岡城跡史跡公園管理運営の実績についてであるが、公園見学者数のカウントはどのような形で行っているのか。
- 事務局：ガイドランス施設の来館者数は、開館日の管理人の日誌と閉館日のガイド案内の人数をカウントしている。一方、公園全体の見学者であるが、例えばガイド案内予約も無く史跡公園に来訪し、(ガイドランス閉館時も開放されている)ガイドランスの風除室内にある記名帳に記入した方の数なども加えてカウントをし、指定管理者から報告を受けたものである。
- 委員：イバラトミヨ保護についてだが、生息地や生息数などはどのような状況か。
- 事務局：生息地は板井川地区内であり、環境状況の現地確認はしているが、正確な生息数調査までは行っていない。同地区にあるイバラトミヨ保存会による生息地環境保全の費用の一部を支援している。旧櫛引町では生息地の環境整美を直接町が行い、山形大学による調査、櫛引公民館や櫛引南小学校に水槽を置き、イバラトミヨの営巣などの生態を展示する事業を行った時代もあったが、現在は地元で組織する保存会が、環境整美や保護活動を行っている。なお、イバラトミヨにもいくつかの種類があり、他市で特別な保護を行っている絶滅危惧種ではなく、一般種のイバラトミヨと確認している。
4. 報告：櫛引公民館の指定管理者制度導入について
事務局より制度導入の理由、櫛引地域生涯学習振興組織検討会の設置及び検討結果について説明を行った。
- ・ 質疑応答：特に無し
5. その他：事務局より
- ・ 櫛引地域地区公民館運営審議会委員の任期は、平成29年3月31日までであり、29年度は任期代えとなることの説明を行った。
6. 閉会：事務局